

歯学部における若手研究者の支援

歯学部口腔生化学講座奨学寄附金 (略称：大工原基金) による研究助成

歯学部口腔生化学講座奨学寄附金による研究助成は平成15年3月末に定年退職された口腔生化学講座前教授・元歯学部長の大工原恭氏が寄付された奨学寄附金(総額2,080万円)を原資としている。平成15年度から平成22年度まで8年間にわたり、“歯科医学分野の研究を行っている若手研究者等の研究を助成することを目的とする”という趣旨のもとに設立され、平成15年2月5日にその実施要項が制定された。

助成対象者は、(1)37歳以下の若手研究者で大学院医歯学総合研究科教員のうち、歯学部教授を兼任する教授が主宰する研究分野の教員、(2)歯学部教授を兼任する教授が主指導教員である大学院3年次生以上の学生、となっている。毎年4月末から5月初旬にかけて募集が行われ、5月から6月にかけて選考委員会において審査が行われ、6月の教授会で助成対象者を決定している。平成15年度から18年度までは毎年2名の受賞者に各100万円を研究助成していたが、平成19年度から毎年4名の受賞者に各50万円の助成とし、現在までに合計16名の若手研究者等に助成が行われた。

助成を受けた研究者等は、助成を受けた翌年度の4

月30日までに実施報告書を歯学部長に提出することになっている。また、助成を受けた研究者等が研究成果を発表する場合は、歯学部口腔生化学講座奨学寄附金から助成を受けたことを、英文の場合は“Research Grant for Young Scientist in Oral Biology”と付記することになっている。

以下に、今年度までの助成対象者および研究課題を列挙する。さらに、年度毎の用途内訳を示す。また、成果報告書から学会発表数および論文数を示す。平成19年度から助成対象者数を4名に変更したことにより、用途の内訳が備品ではなく旅費が多くなり、学会発表数および論文数が増えるという期待どおりの成果が生まれているものと判断している。

また、過去の助成対象者から2名の報告を付記する。その他の対象者を含め、この研究助成に対して十分に応えた成果があがったかどうかの判断は一概には困難であるが、助成対象者の今後の研究の進展に必ず繋がるものと期待している。あらためて、大工原基金の恩恵に感謝する次第である。

(平成19, 20年度選考委員長 伴 清治)

平成15年度 応募16名(助手13, 医員0, 大学院生3)

氏名	所属	研究課題
田中 康一	歯科薬理(助手)	酸化ストレス障害と形態分化に伴う核酸塩基輸送体の機能的変化の解析
別府 真広	口腔外科1(助手)	デキサメタゾンとIL 4による口腔扁平上皮癌のMMP 9発現及び活性化抑制効果

平成16年度 応募16名(助手12, 医員0, 大学院生4)

氏名	所属	研究課題
山中 淳之	口腔解剖1(助手)	スリクスを用いた歯種決定の分子メカニズムの探求
村原 貞昭	補綴1(院生4)	歯科治療に応用する超高強度接着システムの実用化

平成17年度 応募13名(助手8, 医員1, 大学院生4)

氏名	所属	研究課題
坂東健次郎	口腔生化(助手)	骨芽細胞におけるメカニカル・ストレス受容体の発現解析
作田 哲也	保存1(助手)	歯根膜特異的・誘導性コンディショナルノックアウトマウスの開発～導入ベクターの開発

平成18年度 応募11名 (助手5, 医員1, 大学院生5)

氏名	所属	研究課題
中山 歩	口腔生理 (助手)	味蕾基底細胞マーカー遺伝子を通じた味蕾の発生・細胞分化の解析
小野原昌弘	補綴2 (院生3)	ミニブタ下顎無歯顎骨における骨と血管の関係 μ CT を用いた形態学的観察と定量評価

平成19年度 応募12名 (講師1, 助教5, 大学院生6)

氏名	所属	研究課題
前田 綾	歯科矯正 (助教)	機械的刺激による歯根膜細胞の IL 8 発現誘導のシグナル伝達機構の解明と, 矯正力による歯の移動における機能的役割
平野 真人	口腔病理 (助教)	薬物代謝遺伝子の点変異と口腔がん発生リスクの解析
佐藤 秀夫	歯科理工 (院生4)	ジルコニアの表面改質
山下 大輔	保存2 (院生3)	生体適合性高強度セラミックス複合体の開発および生体親和性の評価

平成20年度 応募27名 (助教19, 医員2, 大学院生6)

氏名	所属	研究課題
大貝 悠一	口腔細菌 (助教)	歯周病原性細菌の外膜タンパクの病原性に関する研究
富田 和男	歯科放射線 (助教)	放射線診断レベル微小線量放射線照射による細胞の放射線応答機構
石畑 清秀	口腔外科2 (助教)	口腔外科領域症例におけるエンドトキシン活性値測定の有用性に関する検討
稲田 絵美	小児歯科 (院生3)	口呼吸は小児期の嚥下機能を障害するか?

年度毎の使途内訳 (円)

年度	設備備品	消耗品	旅費	謝金	他	計
平成15年度	1,116,045	821,350	47,040	0	15,565	2,000,000
平成16年度	1,064,967	648,540	69,420	0	217,073	2,000,000
平成17年度	388,000	1,583,962	0	0	28,038	2,000,000
平成18年度	1,027,722	776,225	0	0	196,053	2,000,000
平成19年度	0	1,203,379	696,783	0	99,838	2,000,000
計	3,596,734	5,033,456	813,243	0	556,567	10,000,000
%	35.97	50.33	8.13	0	5.57	100

年度毎の学会発表数および論文数

年度	助成数	学会発表数	論文数
平成15年度	2	1	0
平成16年度	2	4	2
平成17年度	2	2	0
平成18年度	2	2	0
平成19年度	4	9	7
計	12	18	9